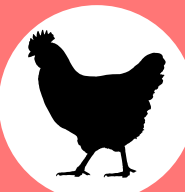


色々な視点から見る“いのち”

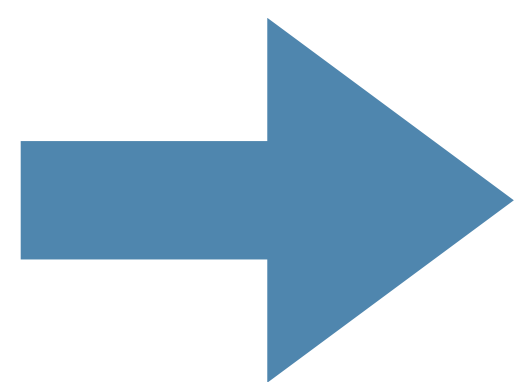
テーマ

今後の未来を担う私達の学びについて



ブロイラーを通して

目的:「食と肉」をテーマに、飼育から加工まで一貫して学ぶ。雛から約2ヶ月、毎日管理を行い最後にはと畜、解体をしました。と殺してから血が抜けるにつれて、ブロイラーの身体が少しずつ冷たくなるのを感じ、自分で管理してきた命を絶つ経験は、「いのち」を預かる責任の重さを強く実感する貴重な機会となりました。解体が終わり、実際にその鶏肉を食べたとき、普段当たり前に口にしている鶏肉は、一つの命をいただいているのだと改めて感じました。毎日の給餌や観察を通して成長を見守ってきたからこそ、最後の工程に立ち会うことで食肉として私たちの生活を支えているという現実を痛感しました。この経験は今後畜産を学んでいく上で重要な経験となりました。



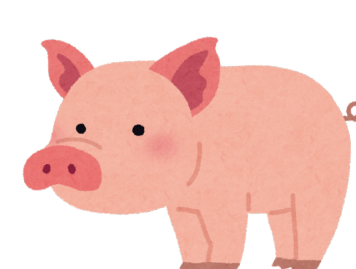
農業と環境で育てた野菜たちを通して

目的:野菜栽培の技術習得と知識を身につける。
トウモロコシ栽培を通して、作物を育てる大変さや食べることの大切さを学ぶことができました。毎日の水やりや管理を続けることで、作物は手をかけた分だけ成長することを実感しました。小さな種が天候や害鳥の影響を受けながら少しずつ成長していく姿に生命の力を感じました。収穫したときには達成感と命をいただくということの意味を改めて実感し、食べ物への感謝の気持ちが深まりました。収穫したトウモロコシを家族や友達におすそ分けすると喜んでくれて、自分の手で生産したものが誰かに届き、「おいしい」と言ってもらえるとこんなにも嬉しい気持ちになるのかと思いました。農業と環境では、生産者の立場となり野菜の生命に関わることができて、農業高校生として良い経験となりました。



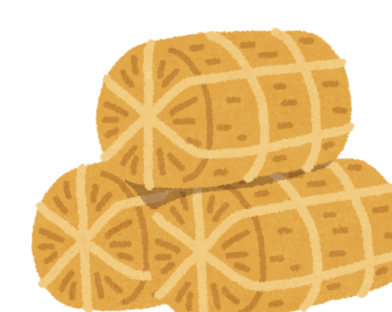
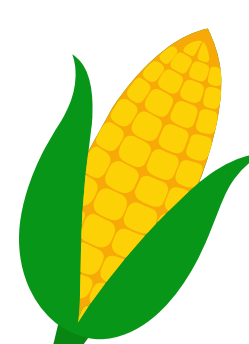
クイズ

Q1. 豚・牛・ニワトリなどを育てる農業を何という？



A. 畜産

Q2. 世界で最も多く生産されている穀物は？



A. トウモロコシ





相原高校での食育活動

マスタースクール

公民館が主催するマスタースクールにて、毎年7月に相原高校に小学生を招待し、野菜収穫の体験を行っています。普段味わうことができない農業の楽しさについて伝えることを目的としました。

①野菜クイズ

部員が先生となる授業で野菜についてクイズ形式で出題し楽しく学べるようにしました。たとえば、ピーマンを放置しておくとか何色になるでしょう。といったあまり聞き馴染みのない一般のクイズでは出てこないような深い部分に問題を作ることで**全員が飽きず**に、より意欲的に取り組みながら野菜についての知識、理解を深められるよう工夫しました。



②野菜収穫

野菜収穫では実際に畑に行き、部員が注意事項や収穫の仕方などを説明しながらナス、ピーマン、ツルムラサキ、オクラの取り放題体験を行っていただきました。ここでは、「オクラってこんなふうになるんだ！」「ナスってツルまで紫なんだ！」などの言葉があったことからこの体験を通して、野菜についての学びに繋がったと感じました。**授業を事前に実施し収穫体験をすることで実際の畑を見ながら結びつけて理解することができ、興味や関心を高めることに繋がったと考えられます。**



③試食

相原高校で育ったエダマメ、ツルムラサキを試食してもらいました。**収穫を行ったあとに実施することで自分で収穫し自分で食べるという農業の一連の流れを体験してもらうことで食べるものが食卓に届くまでには多くの人の努力や時間がかかっていることを理解し、食について改めて考えるきっかけになればよいと考えました。**また、調理を行うことで収穫時とは違う匂いがし、今までと異なる点が発見され、味やそのような変化を家族の方や周りの方と共有している場面も見られました。**収穫して終わり、ではなく食べてみんなと共感し合うまでが農業であると感じました。**

そして毎年実施することで地域の方々に農業や食への理解を深めてもらうだけでなく、学校と地域の交流を深めることにもつながります。また、生徒自身も説明や体験活動を通してコミュニケーション能力を高めることができる貴重な経験となっています。



保育園

保育園との交流会は、1年間に3回相原高校に来ていただき、「野菜収穫」、「アイス作り」、「牛とのふれあい」、「デントコーン迷路」の4つの活動をしました。普段なかなか体験することのできない農業や自然、生き物との関わりを知ってもらうために実施しています。

①野菜収穫

部活動の一環として養牛部の畑で育てた野菜を園児たちに収穫、そして食べるまでを体験してもらう活動です。野菜収穫を体験することで普段自分が食べているものがどのように生産されているか学んでもらうことを目的に夏にナス、ピーマン、オクラ、秋にさつまいもの収穫を行いました。**実際に土に触れながら野菜を収穫することで農業を間近で感じることができます。**また、野菜によって葉の形や大きさ、色、においが違うことに気づき五感を使いながら学んでいる様子が見受けられました。自分で収穫した野菜に対して「はたたくたい！」「ママにあげる！」という声もあったことから、食への興味につながる大切な経験になったと考えられます。そして最後には野菜の大きさを競い合う光景も見られ意欲的に活動へ参加する様子も見られました。



②アイス作り体験

アイス作り体験を通して牛乳の魅力を知ってもらう機会を作りました。この活動ではミックスを容器に入れてもらう工程から体験してもらうことで、アイスがどのような材料から作られているかを学び、自分で作る楽しさや完成したときの達成感、満足感を感じてもらうことができました。**触れ合った牛たちから生産された牛乳で製造を行うことで、自らで作る楽しさや生産から加工までの学びを得られる活動になりました。**

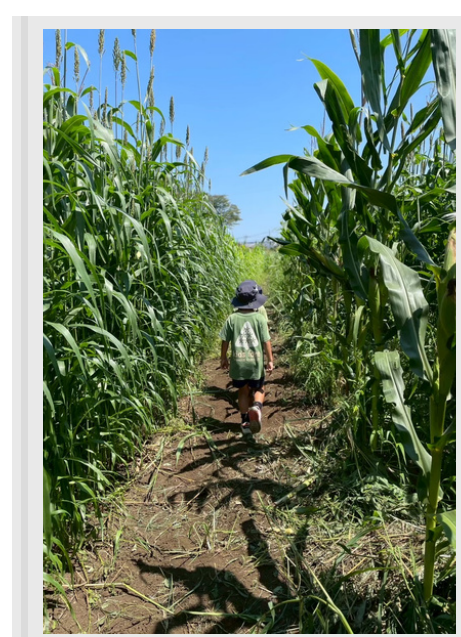
③ふれあい体験

普段触ることが難しい牛を間近で見ただけで触れ合うことで動物の温かさを感じてもらうことを目的としました。この活動では子牛を外に出して頭や体などを触れ合ってもらいました。子牛の体に触れてから「あったかい！」「きもちいい！」という言葉がありました。このことから目的である**“動物の温かさを感じてもらおう”が達成できた**といえます。搾乳牛の方では、体が大きいことや、急な鳴き声に驚き「ちょっとこわい」と怯えてしまう園児や泣き出してしまう園児もいたことからまだ牛に対して抵抗感があると考えられます。しかし、部員が園児に対し、励ましの言葉をかけたり、友達が触れ合っている姿を見て少しずつ自分なりに挑戦しようとする姿勢が見られました。また、動物園や牧場でも体験することが難しい牛と実際に触れ合うことで牛の可愛さや牛についての新たな発見、他の動物達と違う点を楽しく学べたと思います。



④デントコーン迷路

デントコーン迷路を作ることで牛が食べている飼料について興味を持ってもらうことを目的としました。背の高いデントコーンに囲まれた道を進むことで、自然の迷路体験を楽しんでいました。デントコーンを近くで見たり触れたり、通り道にクイズを設置したりすることで、**農作物への興味を深める様子が見られました。**



相原高等学校 養牛部の活動

神奈川県立相原高等学校は相模原市に位置し、今年で104周年を迎え、総合ビジネス科、食品科学科、環境緑地科、そして畜産科学科のある専門高校です。リニア中央新幹線の建設に伴い10年ほど前に移転したことで新築の学び舎となりました。畜産科学科では、校内の農場で豚約20頭、鶏約300羽、牛約20頭、その他ヤギ、ヒツジ、ウマ、犬などを飼育し、家畜の飼育技術、生理生態、加工技術などを実践的に学んでいます。



養牛部とは



私達、養牛部は3年生9人、2年生7人、1年生10人の合計26人で活動しています。休日、年末年始問わず毎日シフト制で管理に取り組み、乳牛13頭、肉牛6頭の合計20頭を飼育しています。平日の管理は搾乳・哺乳・餌やり・牛追い・除糞など牛が快適で過ごしやすい環境作りをしています。また、牛洗いや牛の部屋掃除、月1で体格測定をし、牛の健康や成長具合の把握を行います。他にも、野菜の栽培、搾乳牛から搾った相原牛乳100%のソフトクリームや子牛の頃から部員が育てた肉牛の牛肉の販売も行っています。これらの活動に加えて、月に1回の食育活動である「あいはら牧場」、小学校や保育園を招いての食育活動を行っています。

命を預かる責任の重さと、命の温かさをどちらも感じながら過ごす事のできる養牛部。牛や仲間たちと共にやりたいことに全力で取り組めて、悲しさや喜びを共有することができる最高の部活です！



あいはら牧場について

養牛部が開催する食育活動「あいはら牧場」

目的:これまで継続して行ってきた私たちの活動は14年目を迎え、昨年は食と農と人の距離に注目。あいはら牧場を通して、地域の方々に食育への興味を持ってもらいたいと考え、活動を拡大し続けています！

あいはら牧場は畜産フェアという直売所で販売がある第2、第4土曜日のどちらかに月1回開催しています。主にふれあい・ブラッシング・餌やり体験を行っている他、季節による体験も実施しており、春には牛と桜の木の前で参加者の写真撮影、クイズラリーなどいつ来ても新しい体験ができるように工夫しています。

また、神奈川県で随一の規模と集客数を誇る観光牧場とコラボし、牛教室、牛乳当てクイズなどの体験ができる出張！あいはら牧場を実施することで、さらに活動を拡大しました。

さらに、神奈川県で開催される「牛乳の日」イベントではみるみる学ぶミルク博士と題し、牛乳を搾り、消費者に届くまでの流れを遊びながら子供でも楽しく学べるものを制作しました。さまざまな場所で食育の輪を広げています。

